

進捗状況の概要 【1ページ以内】**【 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組み 】**

平成29年度には、延世大学校・天津中医薬大学とのダブル・ディグリー・プログラムの協定締結を行い、単位互換・学位取得制度の整備を進めた。加えて、平成28年度にMOU締結を行った5大学のうち、2大学と追加協定を締結し、連携研究組織を増やした。学生教育の質の保証に関して、キャンパス・アジアプログラムでは、各受入研究室の指導教員による評価と、留学期間中の学生による自己評価を行っている。大阪大学全体ではGPA制度の導入と共に、履修状況の客観的な把握、世界基準に則った評価制度の整備・運用を進めている。また、国際公募ガイドラインを策定し、外国人教員の積極的な採用と、各部局でのファカルティデベロップメント（FD）を実施している。

【 学生の派遣・受入のための環境整備 】

プログラムの実施体制の整備として、キャンパス・アジア（以下CA）事務局を設置し、英語・中国語・韓国語が堪能な教職員を配置した。学内では国際教育交流センター、グローバルヘルス・イニシアティブ等との連携体制を構築した。派遣・受入学生に対してはCA事務局から十分な情報提供を行うとともに、個別相談、安全管理を含めた全面的な支援体制を整えている。加えて、留学生チューター（TA）による留学中から帰国後まで受入学生の学生生活や研究・文化交流のサポートを行っている。学生の修学・研究活動の充実に向けて、CA専任教員、医学部・医学系研究科の教員を中心とした英語による特別講義の設定や、国際行政機関（WHO等）や国内の保健・医療機関でのインターンシップ等の実務経験を含めたプログラムを提供している。医学系研究科12教室においては、学習・研究環境の整備を進め、大阪大学医学系研究科の多様な基礎・臨床研究室と協力校間で学生の交換留学を実施している。また研究発表等による学生の修学・研究活動の状況の把握を定期的に行っている。学生の派遣・受入状況は、平成28年度、29年度ともに目標人数を上回る実績となり当初の目標を達成した。

【 事業実施に伴う大学の国際化の状況 】

大阪大学と中国・韓国のパートナー大学の教員間での定期的なweb会議等による情報共有に加え、国際教員会議を毎年1回開催し、本プログラムの実施計画・取組状況・成果・課題について協議・承認を行っている。また毎年全パートナー大学が参加して開催する国際シンポジウムでは、アジアのトップ大学の最先端の研究成果の報告と今後の共同研究に向けた議論を行った。各大学の研究者と、大阪大学におけるパートナー研究室との間で、交流留学や共同研究が進展している。また派遣・受入学生の同窓会を発足し、グローバルなネットワークを通じた東アジアにおける健康問題の解決に向けた人材育成及び研究交流を進めている。医学領域において我が国初の博士課程ダブル・ディグリー・プログラム（DDP）を延世大学校と天津中医薬大学と協定締結し、平成30年度から運用を開始する。加えて北京大学・上海交通大学ともDDPの締結を進めている。

【 情報の公開・成果の普及 】

本事業のHP（日本語・英語）を開設し、プログラム内容の紹介、関連セミナーやイベントの周知・報告を行っている。さらに、大阪大学で提供されている英語による講義や国際シンポジウム等の講演をe-learningで発信する整備を進めており、平成30年度から運用開始を予定している。

【 本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績 】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
5人	5人	5人	5人	10人	14人	10人	17人

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

- ・毎年ホスト校を持ち回りにして、年1回国際教員会議を実施することで、各大学からの教員と国際交流担当の職員が集まり、教育システム・研究連携の両面から、議論を進める機会を構築した。
- ・国際セミナーを年1回開催し、大阪大学の研究室と韓国・中国の研究連携のカウンターパートとなる研究室が、互いに座長として研究連携を報告し、さらに当該分野における最先端の研究報告を行うシンポジウムを行っている。
- ・大阪大学と中国・韓国の各校からのキャンパス・アジア留学生が各自の研究についてポスター報告を行い、ポスター賞を競う機会を設けた。
- ・日本と中国、日本と韓国における交流派遣に加え、日本—中国—韓国の3カ国における留学・研究の機会を持つ2カ国派遣を行った。
- ・年1回の日中韓・国際ワークショップを延世大学校で実施することで、アジアの医療・公衆衛生分野における教育研究連携の促進及び人材育成のネットワークを構築した。
- ・国内外の大学・研究機関、企業、行政機関の学生、教職員、一般に向けた国際シンポジウムを毎年開催し、日中韓の最先端な研究成果の報告や本プログラムの周知活動を行った。
- ・日中韓の各大学間で、プログラムガイドラインの策定やDDP協定に向けて定期的にweb会議を行うとともに、毎年1回国際教員会議を開催し、ガイドラインに関する協議やDDP協定の締結を行った。
- ・国際行政機関WHO本部へのインターンシップとして毎年2名の学生を派遣し、国際的な健康課題解決に向けた知識及び実務経験の習得機会を提供した。
- ・中国・韓国のパートナー大学からの受入学生に対しては、日本の保健・医療機関への理解を深めるため関連施設にてフィールドワークを行った。
- ・大阪大学と中国・韓国のパートナー大学間において、各大学の教員が研究交流のある相手校において英語による集中講義及び学生指導を行った。
- ・平成29年度には派遣・受入学生を中心に構成された同窓会を発足し、研究交流及びグローバルなネットワークの構築と支援を行った。
- ・平成29年度には大学、企業、行政機関からなる外部評価委員会を設置し、本事業の進捗状況に関する客観的な評価を行った。